

2024 年 12 月までに「疾患特異的 iPS 細胞を用いた眼疾患の発症機序の解明および治療法の探索」に同意いただいた方へ

■今回のオプトアウトの内容

今回新たに「4.外部への試料・情報の提供」として、皆様からご提供いただきました一部のデータについては公的データベースに登録させていただくこととなりました。データベースへの登録を希望されない場合は下記「お問い合わせ先」までご連絡ください。

4. 外部への試料・情報の提供

本研究で得られた遺伝子・ゲノムの情報は、誰のものか分からなくした上で、公的なデータベースに登録することがあります。そうすることで、今後多くの研究者の利用が可能になり、病気に苦しむ方々の診断や予防、治療等をより効果的に行うために役立つことが期待されます。遺伝情報がデータベースに登録される際には、2 種類に分けて取り扱われます。

(1) 多くの方の遺伝情報をまとめた統計値等は一般公開されます。(2) 個別の遺伝情報は一般公開されず、公的データベースの運営機関において科学的観点と研究体制の妥当性について審査を経た研究者のみが利用します。

■これまでにご同意いただいている内容

疾患特異的 iPS 細胞を用いた眼疾患の発症機序の解明および治療法の探索

1. 研究の対象

大阪大学医学部附属病院で診断および治療を受けており、病名の告知を受けている患者さん、罹患が疑われる患者さん、および眼疾患のない健康な方を対象とします。

2. 研究目的

近年、私たちの身体を構成する様々な組織や臓器に分化することのできる iPS 細胞が注目されています。iPS 細胞は京都大学の山中伸弥教授が世界で初めて作製に成功した新しい細胞です。人間の皮膚などにある細胞に、ごくわずかの因子を導入し、培養することによって、様々な組織や臓器に分化する能力とほぼ無限に増える能力をもつ細胞で、人工多能性幹細胞と呼ばれます。2016 年に大阪大学眼科学教室では、この iPS 細胞を用いて、試験管

内で眼の発生段階を再現する技術が開発され、この技術が各種眼疾患の発生原因の解明に繋がることが期待されています。

この臨床研究では、患者さんから提供された血液をもとに作製された iPS 細胞を用いて、従来観察することの難しかったヒトでの眼疾患の発症原因の解明と治療法の開発に取り組んでいきます。この発症原因の解明には、患者さんの血液から作製された iPS 細胞から眼の構成細胞を分化誘導し、通常とは異なる表現型が確認される場合はその細胞の特徴についてより詳細な解析を行い、病気の原因となる事象の確定に努めます。また、当研究には健康な方にもご協力をお願いしております。

3. 研究に用いる試料の種類

血液約 20mL

5. 研究組織

研究代表機関名：大阪大学大学院医学系研究科脳神経感覚器外科学（眼科学）

研究責任者名：大阪大学大学院医学系研究科脳神経感覚器外科学（眼科学）

教授 西田 幸二

共同研究期間名：大塚製薬株式会社

研究責任者名：先端創薬研究所薬理研究部 研究員 大本 浩嗣

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問などがありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ます。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪大学医学部附属病院 眼科 原進（助教）

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2 TEL: 06-6879-3456